

平成27年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
高等学校の部 最優秀賞



真の愛国主義者とは

福島県立白河高等学校

1年 吉田 ちひろ

現代では「科学技術」の力を利用した様々な兵器が地球上に数多く存在している。生物兵器、ミサイル、精密な戦闘機、そして核兵器。過去の戦争に使用され、多くの命が犠牲になった。

第一次世界大戦。初めて化学兵器が使われた戦争だ。今からおよそ百年前に起きたこの戦争に興味を持った私は、この夏、近代の戦争について調べてみた。その時写真で見た戦場での惨状が目には焼きついて記憶から離れなかった。毒ガスによって泡を吹いている兵士、失明した兵士達が列を作って行進している様子等。このおそろしい兵器を最初に開発したのはドイツだった。そして、祖国のために化学兵器開発に尽力したのは、フリッツ・ハーバーというユダヤ系ドイツ人だったのである。彼は1868年に生まれ、物理化学の分野で数々の功績をあげた科学者だ。19世紀後半当時のドイツでは迫害されていたユダヤ人たちにも市民権を獲得するチャンスがあった。祖国ドイツへの愛国心が強かった彼は、ユダヤ教からキリスト教へ改宗した。「祖国のために」という彼の強い気持ちは、ドイツ産業に大きく貢献した。それがハーバー・ボッシュ法という技術の開発である。ドイツをはじめとした欧米諸国では産業が発達し、人口が増加していった。しかし、食糧を大量に生産する技術はなく、世界的な食糧危機が近づいていた。このハーバー・ボッシュ法は空気中の窒素をアンモニアとして取り出し、窒素を植物の肥料にして農業生産力を大幅に向上することができる。この技術がなければ世界の人口70億人を賄う食糧は生産不可能であり、今の私達の3分の1は存在していなかったとも言われる。彼は世界を食糧危機から救った功績によってノーベル賞を受賞した。この技術は人類が生きていく上で欠かせないものとなったのだ。

しかし、彼のもう一つの発明は、それとは全く対極的なものである。それが、第一次世界大戦で初めて使われた化学兵器「毒ガス」である。毒ガスの材料となる塩素ガスは当時のドイツで産業の副産物として大量に入手できるものであった。ハーバーは科学者として物質の特性を知り尽くしていたからこそ考えられたのだ。彼に反論する者もいたが、彼は「科学者は平時には世界に属するが戦争時には祖国に属する。」として化学兵器の開発を止めなかった。皮肉なことにナチスドイツ国家が成立した後、強制収容所ではユダヤ人である彼が開発した毒ガスによって多くのユダヤ人の命が奪われてしまったのだ。

私は、ハーバーの生き様を見て、「本当の愛国心とは何か」について深く考えさせられた。ハーバーは、「科学者は平時には世界に属するが戦争時には祖国に属する。」と言ったが、この言葉は現代には通用しないのではないだろうか。ハーバーは確かに初めは食糧危機を解決し、祖国ばかりでなく、人類に平和をもたらそうとした。だが一方では、毒ガスによって他国に大きなダメージを与え勝利へ導こうとした。ハーバーのように「愛国心」のために、科学技術を使う方向性を誤ってしまったら、人類全体の不幸につながると思う。何が祖国のためになるのか考えた時、私は絶対に戦争をするのはいけないと思う。結局ドイツは第一次世界大戦で負けた。勝った国々の間でも様々な形で傷が残る。真の愛国者なら国を戦争に導くことはしてはいけないと思った。もし、ハーバーが現代のドイツに生きていたなら、祖国や世界のために偉大な科学者になっていたのは違いないだろう。そんな彼を変えてしまったのは戦争だと思う。戦争時に祖国のために科学技術を利用していたら、いつまでも平和にならないのではないだろうか。

ハーバーは、「毒ガスを使って戦争を終わらせることで戦争の犠牲者を減らすことができる。」と大戦中に言った。これは日本に原子爆弾を投下したアメリカと同じ理屈である。私は、科学を戦争に利用することでは決して戦争を早く終わらせることはできないと思う。人々の傷が深まるだけである。毒ガスを使った戦いでは結局ドイツ軍と連合軍が次々と新型ガスを使い泥沼化してしまった。原子爆弾は70年前日本に投下された後も、冷戦時代に次々と強力なものが生まれ、今でも人類の脅威となっている。悲惨な戦争で早く平和が訪れたとしても、そこで生まれた恨みは何世代にもわたり残り続ける。科学技術は利用のしかたによって光と影の両方の部分を持つが、人類の平和のためには、影の部分戦争などによって大きくすることのないよう努力を重ねていくことが大切だと思う。

「人類の平和のために」というのは、科学技術だけにあてはまるものではない。国際社会に生きる私達は、他国と関わっていかなければならない。政治・経済・人々との交流、学問の交流。私は将来、世界の国の歴史や文化を学びたい。そこで学んだことを、「人類の平和のために」生かし、ハーバーとは違う道を歩みたい。今も残念ながら世界中で紛争が起きている。日本も近隣諸国と領土をめぐる問題を抱えている。私たちは歴史を通じて、人類が戦争によって過去にどのような過ちを犯してきたのかをしっかりと見つめていかなければならない。その上で地球に生きるすべての人々が平和と幸福の中で生活できるようこれから知恵を使っていかなければならない。ハーバーも祖国の平和を望んでいたことには変わりはない。ハーバーは愛国心があったからこそ戦争に全力を尽くした。だが、現代に生きる私たちは、「真の愛国者」として自国のみが豊かになることばかりを考えるべきではなく、人類のために考え行動すべきだと思う。